

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑		
所在地	福島県会津若松市千石町5-8		
自己評価作成日	令和5年2月吉日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して暮らせるように、常に寄り添い、なんでも言える関係を築けるように努めています。職員同士は、互いに意見交換しながら助け合い、利用者様により良いサービスを提供できるようにしています。現在はコロナ禍の為、なかなか面会もままなりません、利用者様の笑顔を見て、ご家族様にもこの施設を選んで良かったと思って頂けるように、努力しております。コロナの様子を見ながらになりますが、サロン等行えるようになりましたら、地域との繋がりを深め、利用者様に地域の一員として生活しているとの実感を持って頂けるように支援していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の方と交流し地域の一員として生活できるよう、事業所開催のサロンを計画し、認知症や事業所を知ってもらう機会を作るなど、地域密着型サービスの役割を理解した活動を行っている。利用者が日々笑顔で生活できる、と言う目標に向かい、利用者が何を望んでいるのか、その方にとって何が必要なのかを感じ・考え、職員がチームワークで日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、仕事を行う際には常に念頭に置いて業務を行っている。	毎日、職員間で声を掛け合いながら利用者に接し、笑顔を返してくれた時に理念が活かされていると感じている。職員がそれぞれの力を活かし補い合う事で、困難な事が発生しても乗り越え、利用者にとって居心地の良い居場所作りに活かしていきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、現在外部からの慰問や、地域のイベントへの参加は控えている。	地域の方とは、顔の見える関係作りに努め、回覧板も回して貰っている。コロナ禍前は、ボランティアや体験学習の受入れ、認知症カフェを行っている。職員は出勤時等、近所の方と挨拶し、介護の質問等を受け、専門用語等は使わず、解りやすく答えるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の奥様にお会いした際、御親戚の介護や、要介護認定の申請に付いてしつもんがありましたので、できるだけ解りやすくお答え致しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に東公民館の会議室をお借りして、開催していたが、若松市内のコロナ感染者の増加等があった為、現在は書面開催とさせて頂いている。市役所の意見を聞きながら、今後のコロナの様子を見つつ、また東公民館での開催を検討している。	会議で利用者の食事に関して提案があり、ハンバーガーチェーンから取り寄せ、利用者に喜ばれたことがある。運営推進会議を事業所のケアの質の向上に役立てるところができるよう、行事や事故の報告も行き、意見を貰うことでより良い運営を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故やコロナ発生時はもちろん、御家族からの介護保険に関する要望があった時などは、市役所に相談しながら解決するようにしている。	利用者家族から書類の申請を依頼された際、高齢福祉課に相談し、無事に申請を終える事が出来ている。コロナへの対応や、介護保険制度について、有事の際の利用者の避難について等、わからない事は小まめに市役所に電話にて相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	決められた期間ごとに、身体拘束、虐待防止委員会を開き、職員間で意見交換し自らの介護を見直している。また、施設内を点検し、拘束にあたる物が無いかを確認している。	身体拘束及びその他の行動制限のすべてを禁止している。拘束をしないケアを学ぶため、法人内で行われている研修に参加している。一人歩きする方は、歩きたくなる時間なども違うため、日頃から観察し、その方に合わせて安全に歩行して貰えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修等で、身体拘束や虐待に対して、学ぶ機会があり、定期的に委員会を開き、今行っている対応等に付いて見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターとの連絡をこまめにとり、成年後見制度等を使用した方が良い事案が発生した場合は、すみやかに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、十分な内容説明を行い、不安や疑問が残らない様にしている。内容を十分に理解して頂いた上で、契約するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分で訴えられない利用者様もいるので、日頃の様子や表情などをよく観察し、思いをくみ取れるようにしている。ご家族様に電話した際などにも、お話する中でご要望等を離話して頂いている。	利用者に変化があった際や、計画更新時にも連絡・近況を報告し、要望等ないか確認している。頂いた要望等は、介護計画等に反映させることで、職員全員が共有できるようにしている。利用者・家族からの意見や要望が、サービスの質の向上に役立つものと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時などと言わず、常に職員の話聞く姿勢を保つようにしている。試したいケアや、業務の改善点など、随時職員さんからの意見を反映できるようにしている。	利用者の夜間のトイレ介助について意見が出され、シルバーカーで、歩いてトイレに行きつたところ、次第にトイレの回数が減り、安眠できるようになった例がある。職員から資格取得や研修会への参加の要望については、検討後、了解されれば出張扱いで参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員個々の努力や実践、勤務能力を評価する事で、向上心を持てる環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりが、様々な視点から、施設内の改善点や業務の見直し等の意見を出してくれる。意見が出た場合は、他の職員の意見も取り入れつつ、意見を出した職員を中心に実践してみることで、働きながらのトレーニングになっている。法人内研修は、コロナ感染防止の観点から、一人が出席して得た知識を、帰って来てから他の職員に伝		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を月に1回開催し、交流を図り情報交換を行っている。その中でさまざまな情報が得られサービスの質の向上に活かすことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人からはもちろん、御家族や関係機関からも情報を収集し、課題分析を行ってプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時と実態調査時に、御家族様からも今までの経緯等をお聞きして、不安を解消できるようにサポートしている。お金の問題や住所の問題が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やニーズ、ご家族様の希望等を鑑みて、必要と思われるサービスを提案している。将来的な事を心配されているご家族も多いため、今後の見通しを説明するとともに、他施設の紹介も含めて柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のお話や、日頃の様子、表情等から、望んでいる事、やりたい事等を感じ取り、日常のお仕事等を職員と一緒に出来る様にしている。お一人おひとり、好みがわかるように寄り添っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、ご家族との面会が制限されているので、日頃の様子や体調等を、小まめにご家族に報告するようにしている。ご家族様からは、早く外出したい旨や、タブレットを使ったオンライン面会をご提案頂いているが、諸事情により今のところ実現は難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は、馴染みの方の面会や、ご家族の協力を得ながら、馴染みの場所に足を運べるように支援していたが、現在はコロナ禍が落ち着くのを待っている。	家族と一緒に外出や、自宅への外泊、遠方で対応できない家族の為に、職員が利用者と一緒に墓参りに行ったり、利用者の友人が事業所に来訪してくれている。電話は、こちらから掛けて利用者と話して貰ったり、家族から掛かってくるなど自由に使ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様にも、好き嫌いがあり、長く生活するうちに関係が変化したりもするので、利用者様同士の様子を見させていただき、必要とあれば適宜職員が間に入る、席を交換して頂く等の対応をとっている。良好な関係を維持し、出来るだけストレスを感じないで生活出来る様に配慮させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態の変化等により退居された後も、次の施設の申し込みの代行や、施設間での情報提供、御家族との今後について相談等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のご様子や、お話の中から、ご本人の望んでいる事を把握できるように努めている。意思表示が困難な場合でも、普段からのかかわりの中で、本人の思いを感じ取り本人本位に検討している。	日々の介助の際に、その方の思いを感じ取ることができ、うまく言葉にできない方も表情や態度から思いを読み取るようにしている。受け取った思いや意向は、申し送り等で、他の職員に伝え共有している。信頼関係があつてこそ話して貰えると考え、心から信頼して貰えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の段階から、病院やサービス提供事業所等から、情報を収集し、ご家族様と御本人からも貴重な情報を収集させて頂いている。その方の歴史を理解し、より良いサービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握することで、その人に合った適切なサービスを提供するように心掛けている。コロナ禍の為施設から出る機会が少ない為、体力が落ちないように、状態が悪くならない様に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはもちろん、何か変化があれば報告させて頂いている。ご家族様からのご意見にも、真摯に受け止めさせて頂いています。	職員で収集した情報を元に話し合い、現在出来ている事は継続しつつ、出来そうなことも職員と一緒に進めようとして、その方の持っている力の維持向上を目指している。計画に有る無しでなく、その時その人に必要なサービスを提供できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に、直近の利用者様の様子を、詳しく伝達し、情報を共有している。また、毎日の日誌にもできるだけ詳しく記録し、振り返りも出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な発想で利用者様の生活がより良い物になるよう努めている。速やかに上司やご家族とも相談し、利用者様のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、近隣の学校やボランティア団体とも深くかかわっていたが、現在の関係は希薄になりつつある。逆に今まではあまり利用していなかった、お弁当屋さん等からテイクアウトメニューを購入し、施設で食べることでいつもと違うメニューを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、協力病院である医療生協津若松診療所においている利用者様が多いが、その方の状態に合わせて他の病院に診て頂いている方もおり、その方の状態や事情に合わせて対応している。	入居前からのかかりつけ医の継続が基本にし、状態の変化に伴い、かかりつけ医を変えられる方もいる。受診は、家族対応としていたが、コロナ禍のため、職員対応となっている。受診結果は、電話で報告したり、毎月の手紙と、別件で電話する際に一緒に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師さんが定期的に来所してくれるので、受診の報告や、最近の変化について報告し相談している。有事の際には、24時間電話にて相談でき、場合によっては月に1回まで訪問してもらえることとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、苑での様子や入院までの経緯を詳しくサマリにて申し送り、入院中も小まめに連絡を取り合うようにしている。ケースワーカーさんともよく相談し、退院後施設にて快適に過ごして頂けるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活を長く続けられるように、本人とよく話し合い、適度な体操やウォーキング等で、状態の維持を図っている。重度化や終末期に関しては、できるだけ早い段階で、今後の見通しを説明し、心構えをして頂けるようにしている。訪問看護師さん等の関係機関からの協力も得られる体制が整っている。	利用者が重症化した場合は家族に連絡し、入院になった場合は、職員が受診や救急搬送を行い、入院後は退院調整ルールに基づいて、病院側と連携している。職員への、見取りや死に対する研修は、看護師が各事業所を回る形で実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な研修を受け、事故や急変時のマニュアルを事務室の見やすい所に掲示してある。急変時に救急隊員に渡す利用者様の情報は、簡潔にまとめていつでも取り出せる場所にほかんしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月第四月曜日に、多様な想定にて避難訓練を実施している。有事の際は民生委員や町内会長に、応援要請が出来る体制をとっている。非常食は、3日分の食料と水を常に確保し、賞味期限が切れない様に管理している。	コロナ禍前は、消防署員が訓練等を評価し、雪の降る時期は、避難経路に雪が積もらない様に気を付けるようアドバイスを貰っている。第四月曜日を避難訓練の日とし、火災の場合は非常口までの誘導を、地震の場合はテーブル下に隠れ落下物から身を守る訓練等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとり、性格も好みも違うので、その方にあったサービスの提供と、かかわり方を持つように心掛けている。	一人ひとりがそれぞれ、居室にて一人で過ごしたいと望んでいるなら、それを守るのが職員の役目であると伝えている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、早めに声かけしてその場を離れて貰えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスを提供するうえで、利用者様には自由にご自分の思いをぶつけて頂けるように配慮している。他の利用者様にも影響が出るお願いの場合は、他の方との兼ね合いを見ながら、できるだけご希望に添える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや、希望を尊重し、あくまで日々の生活の場である事に配慮している。せかせかと毎日の日程をこなすのではなく、入浴したくない時は、日にちをずらしたり、朝食をゆっくり食べたい時は、後から食べるなど、その人に合った時間で生活出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のお気に入りの服装を職員も解っており、できるだけご希望に添えるようにしている。利用者様が季節に合わない服装を希望した場合には、その日の気温等を考慮して助言させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り旬の食材を使用し、季節に合わせたメニューを提供している。歯が弱い方には、柔らかくしたり刻んだりして提供するなど、美味しく食べてただけて頂けるようにしている。	できるだけ旬の食材を使い、季節の行事に合わせた特別食やおやつを提供し、お弁当を買って来たり、ピザやハンバーガーなど、非日常の食事も提供している。食べ方や速さには個人差があり、そのひとのペースで食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量水分量はもちろん、血圧や体温も毎日測定し、関わった際の表情や話し方等からも、その日の体調の把握に努めている。利用者様一人ひとりの習慣や日課に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には自分で行って頂き、コップや歯ブラシが清潔に保てるようにサービスを提供している。介助が必要な方には必要な介助を行わせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の個別の排泄パターンを把握し、お声かけ等行っている。歩行が不安定な方でも、できるだけ自分で歩いてトイレに行けるように配慮している。	職員がケアすることで、できるだけ長く自分での排泄を続けられるよう、出来る部分は自分で行い、現状を維持できるようにしている。トイレに行く時間には、パターンがあり、時間と利用者の様子を見ながら声かけし、他の方に気付かれぬよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に、こんにゃくやゴボウ等、便秘を解消できる食材を使った料理を提供している。毎日の体操やウォーキング等腸が動くように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴予定表はあるが、利用者様のその日の気分により、入りたくない日はむりせず次の日又お声かけするようにしている。	日勤帯で入浴をして貰い、入浴後に使用する化粧水等は、その方が以前から使っていたものをも使用して貰っている。入浴できなかった方には、暖かいタオルで身体を拭いて貰っている。衣類の着脱時に利用者の羞恥心に配慮し、身体をタオルで覆うなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの、寝る時間も違うし、ベッドの状態も違う為、その方に合った居室温度や、電気毛布の使用など行っている。また、その日の気温によっても快適な温度が変化する為、その日の職員間で話し合い微調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際には医師に状態を報告させて頂き、医師からは薬に付いての説明を受けている。薬は一度お預かりさせて頂き、医師の指示通りに提供している。ひのき薬局との連携も取れており薬に関する相談にのって頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食器拭き、掃除等、その人が得意な事ややりたい事を職員と一緒にやって頂いている。役割を持って頂く事で、楽しく生活しながらQOLの向上を目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、受診以外の外出は出来ない。今後、コロナの様子を見ながら実施していく予定。	コロナ禍の現在、外出制限があるが、天気の良い日には縁側に出てひなたぼっこをして外に出る楽しさを感じてもらっている。職員と一緒に買い物はコロナの感染状況を見ながら検討している。暖かくなったら、感染対策をし出かける予定をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金は、事務所の金庫で保管させて頂いているが、欲しい物等があれば、職員が購入しお渡ししている。コロナの様子を見ながら、一緒に外出して購入する事も検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、ご利用者様の希望で、ご家族との電話でのコミュニケーションを楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感を感じて頂けるように飾り付けし、行事の時の写真など掲示させて頂いて楽しんで頂いている。	一人ひとりの居場所や、好みの場所があり、一人になりたい時には居室に行き、他の方と交流を楽しみたい方は、共有空間で過ごしている。感染症対策で注意していることは、体調不良がある場合や、家族に感染症が出た場合は、所属長に報告し休むことにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段から利用者様の自由な場所で過ごせるように配慮し、利用者様にも定着している。居室で一人で過ごしたり、テレビを観たり、他の利用者様とおしゃべりしたりと、思い思いに過ごして頂けるように関わっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室に仏壇を置いて、毎日お祈りされている方も居れば、写真を沢山飾って楽しまれている方もおり、その方の自由な感性でレイアウトを決めて頂いている。	ベットの高さ等は転倒防止の意味もあり入念に調整し、歩行が不安定な方には、ベッドから入口までを掴まりながら歩けるよう配置している。カーテンは利用者の希望を受け、事業所負担で遮光スクリーン等を貼り、その方に合ったものを選んで貰っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時折、ご自分の居室が分からなくなってしまう方には、居室の戸に名前を表示させて頂いたり、施設内での場所が分からなくなる方には、廊下や壁にトイレ等の目印を付けさせて頂き、わかりやすくさせて頂いている。		